

● 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所（JASDAQ市場）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



●割当基準日 9月末日

●優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様

お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様

お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様

お米券10kgを贈呈いたします。

ajiya 菜園エイジス

株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

●コーポレートマークの由来

ロゴマークは、ローマ字・キータッチ・カタカナの三位体で構成されています。またエイジスのコーポレートカラーである白・青・赤は、白=お客様に対して誠実に仕事をする姿勢、青=冷静・沈着な作業態度、そして赤=エイジスマン・ウーマンの胸に秘めた情熱を表しています。



“Low Cost Operation” 時代の棚卸システム

ajiya 菜園エイジス



売場の生産性を高める 「戦略的アウトソーシング」

いまや日々の暮らしに欠かせない国民大衆のインフラとなったチェーンストア。常に激しい競争の渦中にあるチェーンストア経営に求められる課題は、「ローコストオペレーション」「マスメリットを実現する全国への多店舗展開」「店舗における作業改革」。エイジスは実地棚卸サービスをはじめとする多様なアウトソーシングサービスでチェーンストア企業の課題解決に貢献しています。

実地棚卸サービス



エイジスの専門クルーは365日24時間対応です。閉店後から翌朝の開店時間までの間に実施すれば、棚卸のために休業したり営業時間を短縮する必要もありません。

リテールサポートサービス	
集中補充サービス  閉店後、もしくは開店前に集中補充チームが補充および売場手直しを行います。開店時には完璧な売場でお客様をお迎えできます。バック在庫削減、欠品減少、売上増に効果あります。	カスタマーサービス・チェック  店舗に覆面調査員（ミステリーショッパー）が訪れ、店舗スタッフの接客や店舗の状態を来店客の視点から客観的に調査し、速やかに報告書を提出します。
レジ派遣サービス  繁忙期や新規開店などに伴うレジ要員不足を解決。募集・採用・勤怠管理などにかかる手間と時間を節約できます。	来店客調査サービス  来店顧客の居住地域、来店手段、利用状況など、商圏調査・顧客満足度調査を行います。店舗の販売促進策、品揃え、価格政策の見直しに有用なデータが得られます。

トップインタビュー



経営環境の悪化を
体質強化の好機とし
さらにパワーアップした
エイジスへ進化します。

代表取締役社長 齋藤昭生

Q 第33期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の決算概要について、市場概況を交えてお聞かせください。

流通小売業の経営環境の厳しさを背景に、主要顧客の中には、商品在庫の削減、棚卸の回数減、あるいは自社棚卸に移行などの動きがあり、当社にとっても想定以上に厳しい一年でした。

このような環境下で当社グループは、顧客のローコストオペレーションを側面からサポートするという事業目的をより高い次元で実現するための体制作りを強化して参りました。

具体的には技術開発、人材育成と定着、サービスネットワーク拡充の準備に経営資源を投下しました。また、営業面では既存顧客との関係強化や新規営業開発に注力して参りました。

その結果、連結売上高で18,358百万円(前年同期比2.3%減)、利益面では営業利益は2,039百万円(前年

同期比8.5%減)、経常利益は2,066百万円(前年同期比8.7%減)、当期純利益が1,147百万円(前年同期比8.9%減)という業績になりました。

Q セグメント別の当期の業績についてお聞かせください。

セグメント別の当期の業績は、実地棚卸サービス事業が売上高16,999百万円(前年同期比0.7%減)となりました。そのうち、国内棚卸受託収入は一部の業態では売上は増加傾向にあるものの、16,328百万円(前年同期比0.7%減)となりました。また、海外棚卸受託収入(エイジス韓国)は428百万円(前年同期比5.7%減)となりましたが、これはウォン安による影響を受けたもので、ウォンベースでは5.3%の伸長と、着実な成長を見せています。その他の流通業周辺サービスでは、110百万円(前年同期比13.6%増)となりました。



精度・生産性の向上に努め、受注拡大を目指します。

一方、人材派遣事業では、市場環境の悪化により需要が大幅に減った影響から、売上高は1,358百万円(前年同期比18.0%減)となりました。



当期業績についての評価、
また背景・要因分析をお聞かせください。

当社は、国内約2,000社の顧客資産を持ち、教育された人材の動員力やマネジメント力を強みとして、全国ネットワークの棚卸サービスやリテイルサポートサービスを提供しています。それでも、2008年のリーマンショックからはじまった世界的な経済の減速にあって、流通小売業の苦戦は当社業績にも影響をもたらしました。

しかし、こうした状況をチャンスと捉え筋肉体質な会社への変革をスローガンに各種施策を進めて参りました。

従来の売上高や利益といった量の追求から、品質・生産性といった質への変換をしてさらなる収益性の改善を目指して参りました。

具体的には、エイジス独自の技術を開発し、それを徹底できる体制を構築することです。

独自技術では、プロならではのカウンタ技術確立し、新オペレーションを開発しました。

そして、それらを教育する体制を構築し、さらに棚卸現場でのOJT体制の強化を行いました。

また、営業部門を増員することにより、顧客との関係強化をはかり顧客と当社の両方にメリットがある提案ができる体制をつくってきました。



第34期(平成23年3月期)の
取り組みについてお聞かせください。

第33期と同様に「独自技術」を開発し、それを「徹底する」と「棚卸人材の育成と定着」に取り組みます。

実地棚卸サービス事業では、当社には、他社には追従できない優れた独自技術があります。

棚卸業務は、未経験の人と当社ベテランスタッフとの間には精度・生産性の両面で数倍の作業効率の違いがあると認識しています。

「独自技術の開発」では、既存の技術のレベルアップと同時に、新しい技術の開発にも取り組んでいます。またバラツキを無くすために標準化にも取り組んで参ります。さらに標準化を推進する専門部署として第34期よりD.O.標準化推進部を新設しました。

徹底力の強化では、現場での指導を強化していくとともにマネジメント人材の育成に取り組んで参ります。

また、第34期から取り組みを強化する「棚卸人材の



育成と定着」についてですが、これは、棚卸技術をマスターした人材にエイジスで長く働いてもらうための取り組みです。これは技術の外部流出防止にもつながります。施策として大きく三つあります。

一つ目は従来から取り組んでいます学生の「リターン」推進です。一般的に学生の休暇時期とエイジスの繁忙期の大部分が重なります。繁忙期にはエイジスで働いてもらい、閑散期には学業に集中してもらうような仕組みをつくります。

二つ目は閑散期の離職防止です。閑散期になると仕事が少なくなりますので、棚卸技術をマスターした人材が他の仕事を探してエイジスを退職してしまうことがあります。これを防止するために、閑散期に棚卸以外の仕事を確保して参ります。

三つ目はチーム制です。人と人のつながりを強化することにより、離職防止、ルールの徹底を目指します。

さらに提案型の営業の強化にも注力していきます。従来は顧客の要望を受けて顧客ごとに棚卸のオペレーションは異なっていましたが、これではオペレーションが複雑になり、精度・生産性が低下します。

当社の長年の経験、研究を元に開発した標準化されたオペレーションを提案し、精度・生産性による品質や価格のメリットを理解いただけるように努力したいと考えています。

顧客とエイジス両方にメリットがある提案を推進することで受注拡大を目指して参ります。

人材派遣事業については、サービスの絞込みを行います。

絞込みの切り口としては、教育された技術者によるサービスが提供できる分野と棚卸サービスとのシナジー

が期待できる分野ということです。

選択と集中を行いチェーンストアに貢献できる当社グループならではのサービスを確立して参ります。

海外の棚卸事業は今後の成長が期待されます。

国内で培った独自の技術やスタッフ教育のノウハウをそのまま海外でも浸透させ、海外でも日本と同水準のサービスを提供していく方針です。

そのため、日本から現地に派遣するスタッフも増強し、教育体制を強化して参ります。

また、海外棚卸サービスを強力に推進するために、第34期より市場調査部門に加え、海外営業に特化する海外棚卸営業推進部門を新設しました。

これにより、海外棚卸サービスにおいて年率20%～30%の成長を目指して参ります。



最後に、株主の皆様に向けて
メッセージをお願いします。

当期は創業以来、初の減収減益となりましたが、これを体質改善の好機と捉えて、パワーアップしたエイジスをつくり上げていきたいと考えております。今全社を挙げて体質改善に取り組まなければ、当社の今後の成長はない、という危機意識を持って、全社員が一丸となりステップアップして参ります。

今後もさらに、精度・生産性の向上及び本部ならびにD.O.の業務効率の改善に努め、さらなる収益力の向上を目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



創業時の理念に立ちかえり、新たなイノベーションの創造へ —— 「エイジス ミュージアム」開館！



本社第2ビル竣工と 「エイジス ミュージアム」の開館

平成21年末に、エイジス本社第2ビルが竣工されました。この一階に「エイジス ミュージアム」を設立しました。エイジスは創業以来、米国のマスコリーノ社と提携し、日本の棚卸業務に革新をもたらす先進的なテクノロジーで、正確性と作業の効率化とを両立し、ビジネスを拡大して参りました。

棚卸専用端末を使って行う棚卸業務は、当時としては画期的だったのです。その革新性を感じていただける機器が、「エイジス ミュージアム」には数多く展示されています。

エイジスの発展は イノベーションの歴史

例えば、ワイヤーレコーダーという録音機器は、2人一組で行っていた棚卸作業を1人で処理できるようにした革新的なデバイスでした。半世紀ほど前の棚卸作業では、1人が在庫をカウントし、その後でもう1人が読み上げられた売価と数量を紙に記録して実施していました。そこにワイヤーレコーダーを導入することによっ

て、棚卸要員が商品の売価と数量などを音声として記録し、後で再生しながら紙に転記できるようになったことで、革新的なオペレーションを実現したのです。

さらにテクノロジーが進化すると、現在の棚卸作業に欠かせない棚卸専用端末が開発されました。商品を数えながら、棚卸専用端末のキーボードに直接入力することで、棚卸作業の生産性が飛躍的に向上しただけではなく、集計作業の効率化にもつながりました。

創業時のエネルギーを忘れずに さらなる成長戦略を推進

エイジスを創業した当時、米国の最新技術を採用し、自前では実現できない圧倒的なコストパフォーマンスによって、マーケットを開拓してきました。

33年前の創業当時から、エイジスはその優れたノウハウをいかに日本で実践し拡大させるかを経営の柱としてきました。その結果、着実に成長を続けて日本でトップシェアの企業になりました。今後、当社の競争力をさらに高めていくためには、新たなイノベーションを起こさな



エイジス本社第2ビル

竣工 平成21年12月

所在地 千葉県千葉市花見川区
幕張町3-7727-1

階数 地上6階建

延床面積 1,989.91㎡

ければなりません。ここ数年は、当社の業務に最適な棚卸専用端末を開発し生産するなど、棚卸専用端末への積極的な投資を行っています。また、現場での棚卸要員の教育を強化するなど、人材育成に力を入れています。

「エイジス ミュージアム」に展示されている「エイジスの土台」から創業時のエネルギーをもらい、日本発のイノベーションを起こし、業界に新たな旋風とビジネスチャンスを広げて参ります。

■ 当期の概況（連結）

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジア市場の内需拡大、欧米主要国の景気底入れなど、輸出や生産に一部回復の兆しが見えはじめたものの、所得の減少や雇用に対する不安等から個人消費は低迷し、景気回復にはしばらく時間がかかるものと予想されます。

当社の主要顧客であります流通業界は、消費者ニーズの低価格・節約志向がより鮮明になり、それに 대응するための価格競争や商品開発競争が激化するなど、極めて厳しい経営環境が続いております。そのために商品在庫減、棚卸回数減、自社棚卸への移行といった資金の効率化、経費削減や社内人材の転用などの動きが一部の顧客で発生し、当社にとっては想定以上に厳しい一年でした。

このような環境下で当社グループは、顧客のローコストオペレーションを側面からサポートするという事業目的をより高い次元(精度・生産性の両面)で実現するための体制作り、具体的には技術開発、人材の育成と定着、サービスネット

ワーク拡充の準備に経営資源を投下するとともに、既存顧客との一層の関係強化、新規営業開発に注力して参りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は18,358百万円(前年同期比2.3%減)、営業利益2,039百万円(前年同期比8.5%減)、経常利益2,066百万円(前年同期比8.7%減)、当期純利益1,147百万円(前年同期比8.9%減)となりました。

■ セグメント別の概況

実地棚卸サービス事業

【国内棚卸受託収入】

棚卸受託収入の売上高は前年同期比0.7%減の16,328百万円となりました。業態別の内訳は下記のとおりです。

●コンビニエンスストア

売上高は前年同期比0.3%増の3,410百万円となりました。

●スーパーマーケット

既存顧客の受注増により、売上高は前年同期比2.1%増の2,381百万円となりました。

●ホームセンター・ドラッグストア・ディスカウントストア

新規顧客の獲得及び既存顧客の受注増により、売上高は前年同期比3.6%増の3,686百万円となりました。

●書店

既存顧客の店舗減により、売上高は前年同期比3.3%減の953百万円となりました。

●G.M.S.（注）

売上高は前年同期比0.9%増の2,308百万円となりました。

●その他

既存顧客の受注減により、売上高は前年同期比7.5%減の3,589百万円となりました。

注）G.M.S.（General Merchandise Store）
大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。
いわゆる日本型大型総合スーパーであります。

【海外棚卸受託収入（エイジス韓国）】

新規顧客の獲得により、韓国におけるウォンベースの棚

卸受託収入は前年同期比5.3%の伸長でありましたが、ウォン安の影響で、売上高は428百万円、前年同期比5.7%減となりました。

【その他の流通業周辺サービス】

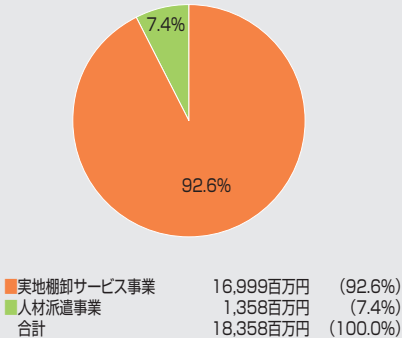
売上高は前年同期比13.6%増の110百万円となりました。

上記のとおり、国内と海外の棚卸受託収入の合計は16,756百万円となり、ロイヤリティ収入の132百万円及び、その他の流通業周辺サービスの売上高110百万円を加えると、実地棚卸サービス事業の売上高合計は16,999百万円(前年同期比0.7%減)、営業利益は2,032百万円(前年同期比5.8%減)となりました。

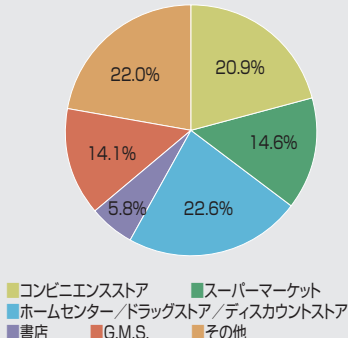
人材派遣事業

人材派遣市場の厳しさを背景に需要が大きく落ち込み、売上高は前年同期比18.0%減の1,358百万円、営業損失は0百万円(前年同期は営業利益60百万円)となりました。

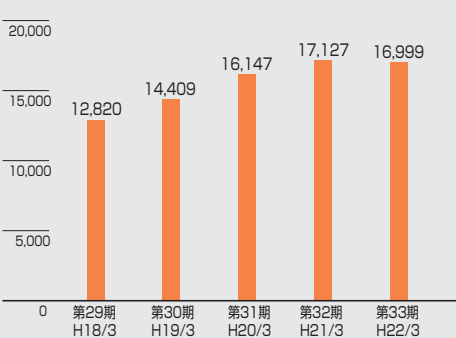
事業の区分別売上高（構成比）



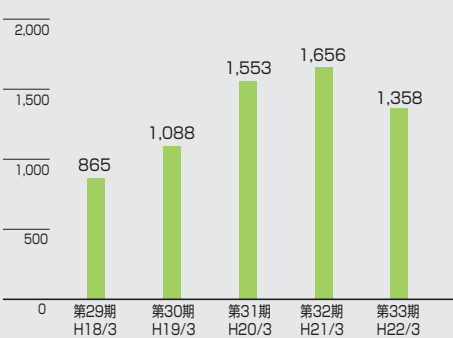
国内棚卸受託収入の業態別売上高構成比

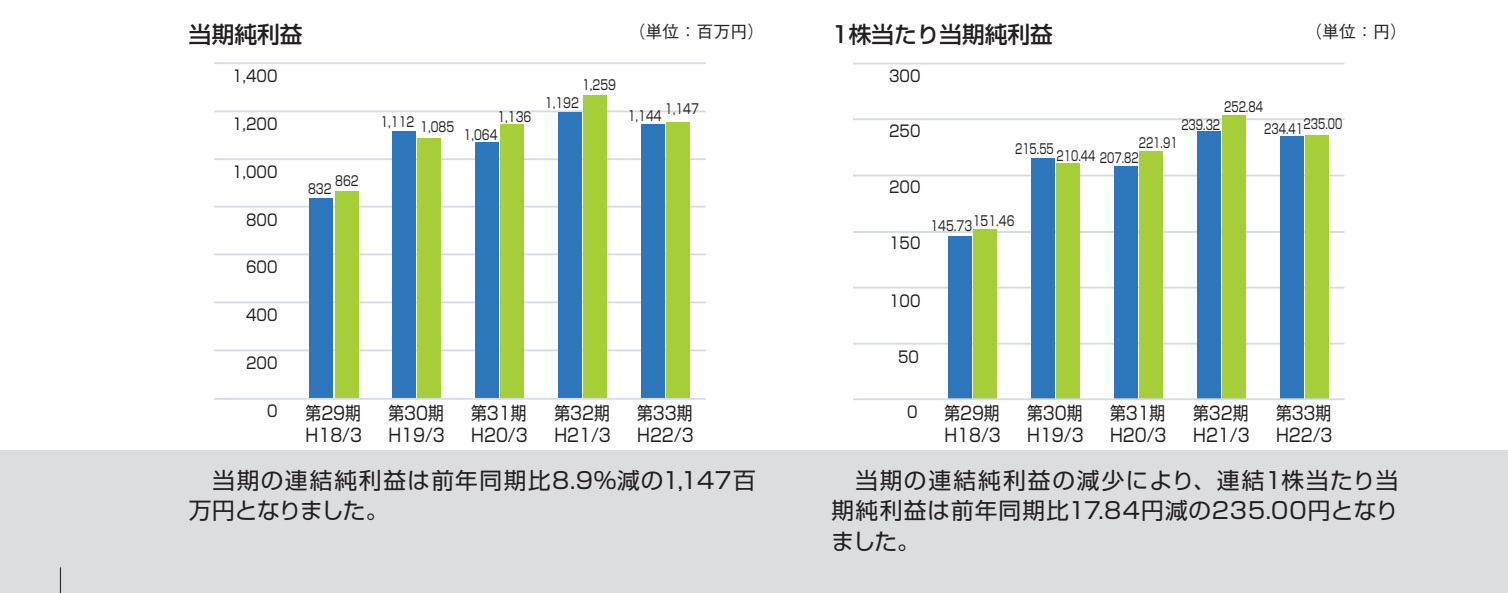
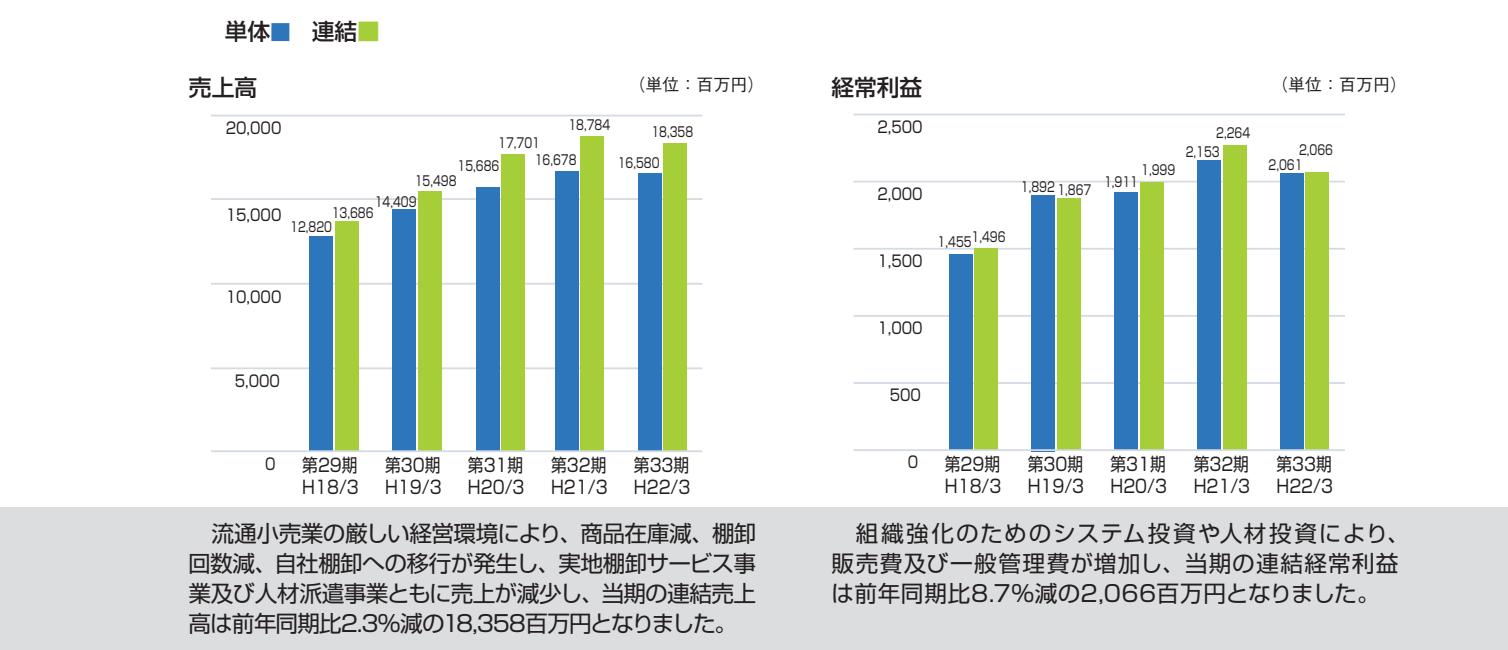


実地棚卸サービス事業売上高（単位：百万円）



人材派遣事業売上高（単位：百万円）





連結貸借対照表（要旨）		（単位：百万円）	
	当 期 H22.3.31現在	前 期 H21.3.31現在	
資産の部			
流動資産	6,300	5,800	
固定資産	3,499	2,875	
資産合計	9,800	8,676	
負債の部			
流動負債	2,518	2,501	
固定負債	363	134	
負債合計	2,882	2,635	
純資産の部			
株主資本	6,983	6,135	
資本金	475	475	
資本剰余金	489	489	
利益剰余金	7,326	6,399	
自己株式	△1,307	△1,227	
評価・換算差額等	△89	△120	
少数株主持分	24	25	
純資産合計	6,918	6,040	
負債純資産合計	9,800	8,676	
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。			

連結損益計算書（要旨）		（単位：百万円）	
	当 期 H21.4.1～H22.3.31	前 期 H20.4.1～H21.3.31	
売上高	18,358	18,784	
売上原価	13,594	13,905	
売上総利益	4,763	4,878	
販売費及び一般管理費	2,724	2,650	
営業利益	2,039	2,227	
営業外収益	59	62	
営業外費用	32	26	
経常利益	2,066	2,264	
特別損失	24	32	
税金等調整前当期純利益	2,041	2,231	
法人税、住民税及び事業税	916	991	
法人税等調整額	△20	△23	
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	4	
当期純利益	1,147	1,259	
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。			

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）		（単位：百万円）	
	当 期 H21.4.1～H22.3.31	前 期 H20.4.1～H21.3.31	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461	1,671	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,392	△514	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36	△879	
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△23	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	42	254	
現金及び現金同等物の期首残高	3,031	2,777	
現金及び現金同等物の期末残高	3,073	3,031	
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。			

連結株主資本等変動計算書		（単位：百万円）								
当 期 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成21年3月31日残高	475	489	6,399	△1,227	6,135	△75	△44	△120	25	6,040
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△220		△220					△220
当期純利益			1,147		1,147					1,147
自己株式の取得				△79	△79					△79
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						16	15	31	△1	30
連結会計年度中の変動額合計	—	—	927	△79	847	16	15	31	△1	877
平成22年3月31日残高	475	489	7,326	△1,307	6,983	△59	△29	△89	24	6,918
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。										

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当 期	前 期
	H22.3.31現在	H21.3.31現在
資産の部		
流動資産	5,926	5,363
固定資産	3,651	3,040
資産合計	9,578	8,403
負債の部		
流動負債	2,391	2,322
固定負債	359	114
負債合計	2,750	2,436
純資産の部		
株主資本	6,887	6,042
資本金	475	475
資本剰余金	489	489
利益剰余金	7,230	6,306
自己株式	△1,307	△1,227
評価・換算差額等	△59	△75
純資産合計	6,827	5,967
負債及び純資産合計	9,578	8,403

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当 期	前 期
	H21.4.1～H22.3.31	H20.4.1～H21.3.31
売上高	16,580	16,678
売上原価	12,266	12,361
売上総利益	4,314	4,316
販売費及び一般管理費	2,295	2,202
営業利益	2,018	2,114
営業外収益	77	69
営業外費用	34	29
経常利益	2,061	2,153
特別損失	24	32
税引前当期純利益	2,036	2,121
法人税、住民税及び事業税	909	950
法人税等調整額	△16	△21
当期純利益	1,144	1,192

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当 期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計					
						別途積立金	繰越利益剰余金						
平成21年3月31日残高	475	489	0	489	63	4,660	1,582	6,306	△1,227	6,042	△75	△75	5,967
事業年度中の変動額													
別途積立金の積立						800	△800	—		—			—
剰余金の配当							△220	△220		△220			△220
当期純利益							1,144	1,144		1,144			1,144
自己株式の取得									△79	△79			△79
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)										—	16	16	16
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	800	124	924	△79	844	16	16	860
平成22年3月31日残高	475	489	0	489	63	5,460	1,706	7,230	△1,307	6,887	△59	△59	6,827

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況（平成22年3月31日現在）

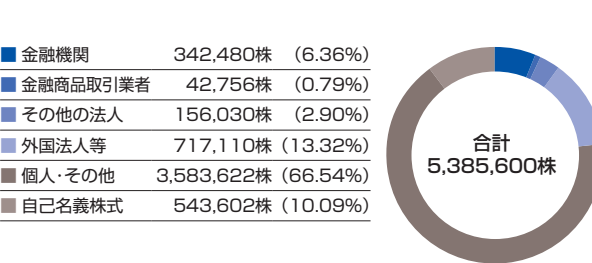
発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	2,288名

大株主（上位10名）（平成22年3月31日現在）

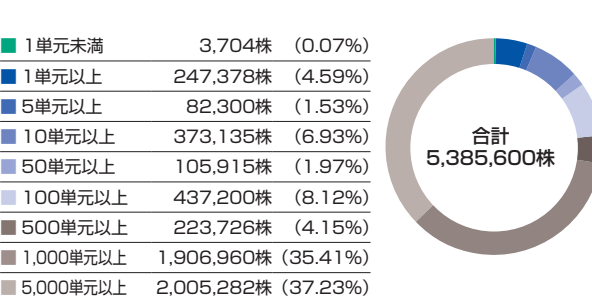
株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
齋藤昭生	782,880	14.54
齋藤陽子	678,880	12.60
ピービーエイチフォーフィデリティーロープライスストックファンド	438,500	8.14
齋藤茂昭	408,100	7.58
齋藤泰範	275,670	5.12
齋藤茂男	196,900	3.66
小林美保子	184,800	3.43
ノーザンストラトバ（ノーエイブイアシーノ）ノーストラストガゼット・リー・クワイアツ	158,990	2.95
野村信託銀行株式会社（投信口）	143,500	2.66
メロンバンクエヌエー・トリティー・クワイアント・オムニバス	100,500	1.87

（注）当社は、自己株式543千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除外しております。

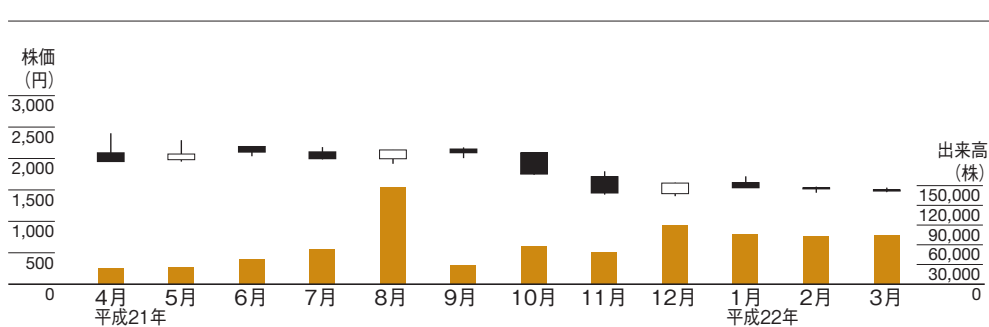
所有者別分布状況（平成22年3月31日現在）



所有株数別分布状況（平成22年3月31日現在）



株価・出来高の推移



会社概要（平成22年3月31日現在）	
会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO.,LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	264名 (312名 ※連結)
営 業 拠 点	直営52ヶ所 FC32ヶ所 (合計84ヶ所)
業 務 内 容	●実地棚卸サービス ●その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	●三菱東京UFJ銀行 ●千葉銀行 ●みずほ銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役及び監査役（平成22年6月29日現在）	
取 締 役 会 長	芦 部 克 生
代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	山 地 琢 巳
常 務 取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	秋 葉 孝
取 締 役	五十嵐 亨 司
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
取 締 役	森 和 弘 ※1
常 勤 監 査 役	鈴 木 行 雄
常 勤 監 査 役	増 子 泰 由 ※2
監 査 役	安 田 登 ※2

※1 森 和弘は、会社法に定める社外取締役であります。
※2 増子 泰由及び安田 登は、会社法に定める社外監査役であります。

主要取引先（平成22年3月31日現在）		
コンビニエンスストア		
サークルKサンクス	セブン-イレブン・ジャパン	ポプラ
スリーエフ	デイリーヤマザキ	ミニストップ
セーブオン	ファミリーマート	ローソン
G.M.S.スーパーマーケット		
イオンリテール	サミット	ベルク
イズミ	サンセブン	マイカル
イズミヤ	西友	マックスバリュ
イトーヨーカ堂	ダイエー	マルエツ
いなげや	大黒天物産	万代
オークワ	東急ストア	みやぎ生協
オオゼキ	トヨタ生協	ヤオコー
オギノ	とりせん	ヤマザワ
オリンピック	長崎屋	ヤマナカ
カスミ	原信	ユーコープ事業連合
関西スーパーマーケット	パロー	ヨークベニマル
コープこうべ	平和堂	ライフコーポレーション
コープネット事業連合	ベシシア	
百貨店		
伊勢丹	天満屋	丸井
大丸松坂屋百貨店	阪急阪神百貨店	三越
高島屋	松屋	
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア		
ウェルパーク	CFSコーポレーション	富士薬品
カインズ	ジップドラッグ	PLANT
カワチ薬品	島忠	ホームマック
クスリのアオキ	スギ薬局	マツモトキヨシ
クリエイト エス・ディー	セイジョー	ユタカファーマシー
ケーヨー	セキチュー	ユニリビング
ゲンキー	ダイユーエイト	ライフオート
コーナン商事	千葉薬品	ロイヤルホームセンター
サンドラッグ	トステムビバ	
書店		
あおい書店	三洋堂書店	文真堂書店
旭屋書店	JR東日本リテールネット	丸善
アシーネ	ジュンク堂書店	宮脇書店
グレイズ・ヴァンガードコーポレーション	カルチュア・コンビニエンス・クラブ	未来屋書店
紀伊国屋書店	阪急リテールズ (ブックファースト)	有隣堂
三省堂書店	文教堂	リプロ
その他		
赤ちゃん本舗	ザラ・ジャパン	ビックカメラ
アディダス ジャパン	ジョルジオ アルマーニジャパン	ヒラキ
エディー・パウアー・ジャパン	ゼビオ	藤久
エディオン	セリア	ポイント
ギャップジャパン	大創産業	メガスポーツ
キャンドゥ	東急ハンズ	やまや
九九プラス	東京シャツ	ユニクロ
クリスチャン ディオール	ドン・キホーテ	ライトオン
クレアーズ日本	西松屋チェーン	良品計画
コーチ・ジャパン	ニトリ	ロフト
コジマ	日本トイザらス	ワークマン
コックス	パル	ワールド

※敬称・法人格は省略させていただいております。 ※50音順

●株式会社エイジス（平成22年3月31日現在）		
青森D.O.	千葉D.O.	岡崎サテライト
秋田D.O.	市原サテライト	金山サテライト
盛岡サテライト	西千葉サテライト	四日市D.O.
仙台D.O.	柏D.O.	岐阜D.O.
山形サテライト	東京D.O.	金沢D.O.
郡山D.O.	南東京D.O.	富山サテライト
宇都宮D.O.	東東京D.O.	大阪D.O.
小山サテライト	吉祥寺D.O.	堺D.O.
水戸D.O.	八王子D.O.	東大阪D.O.
土浦サテライト	立川サテライト	奈良サテライト
新潟D.O.	横浜D.O.	京都D.O.
高崎D.O.	横浜関内D.O.	滋賀サテライト
長野D.O.	厚木D.O.	神戸D.O.
松本サテライト	町田サテライト	姫路D.O.
大宮D.O.	静岡D.O.	岡山D.O.
越谷サテライト	沼津サテライト	松江サテライト
川越D.O.	浜松D.O.	
熊谷サテライト	名古屋D.O.	

●エイジス九州株式会社		
広島D.O.	福岡D.O.	八代サテライト
広島北サテライト	福岡東D.O.	宮崎D.O.
福岡D.O.	久留米D.O.	鹿児島D.O.
山口D.O.	長崎D.O.	沖縄D.O.
下関サテライト	佐世保サテライト	沖縄北サテライト
小倉D.O.	佐賀D.O.	
大分D.O.	熊本D.O.	

●エイジス北海道株式会社		
札幌D.O.	函館D.O.	帯広D.O.
札幌中央D.O.	旭川D.O.	釧路D.O.
苫小牧D.O.	北見D.O.	厚別D.O.

●エイジス四国株式会社	
高松D.O.	松山D.O.
徳島D.O.	高知D.O.

(注) D.O. (ディストリクト オフィス) とは営業所のことです。
サテライトとは出張所のことです。



●子会社及び関連会社（平成22年3月31日現在）	
●子会社	エイジススタッフサービス株式会社（千葉市 人材派遣事業） 仙台/新潟/東京/千葉/横浜/名古屋/大阪 エイジスビジネスサポート株式会社（大韓民国 ソウル特別市 実地棚卸サービス事業） ソウルD.O./プサンD.O./テジョンサテライト/テグサテライト 大連愛捷是科技有限公司 （中華人民共和国遼寧省大連市 システム開発及び棚卸機器の開発・製造）
株式会社カスタマーサービス・チェック（千葉市 覆面調査）	エイジスシステム開発株式会社（千葉市 システム開発）
艾捷是（上海）商务服务有限公司（中華人民共和国上海市 実地棚卸サービス事業）	AJIS(MALAYSIA)SDN BHD. (マレーシア・セランゴール州 実地棚卸サービス事業)
エイジスコーポレートサービス株式会社（千葉市 事務代行業務）	●関連会社
台湾愛捷是股份有限公司（中華民国台湾省台北市 実地棚卸サービス事業）	